

図を使って考えよう「わからない数」のある たし算とひき算のやり方

図をつかった たし算

「図をつかった たし算」とは、どういうことかという、

- ・文を 図であらわして、
- ・「わからない数」を □にして たし算の しきを 作る

ということだよ。

たとえば、つぎの 文を 見てみよう。

みかんが 18こ あります。
何こか 買ってきたので、
ぜんぶで 32こに なりました。

まず、この文を 図で あらわしてみるよ。

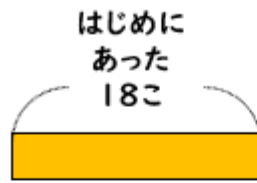
ただ、この文には 「わからない数」 があるよね。

そう、「買ってきた みかんの数」がわからないよね。

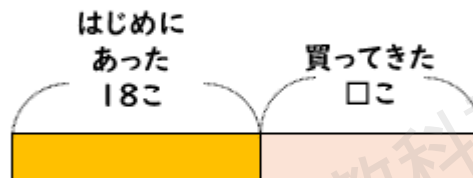
この、「わからない数」である 「買ってきた みかんの数」を 「□こ」にしたよ。



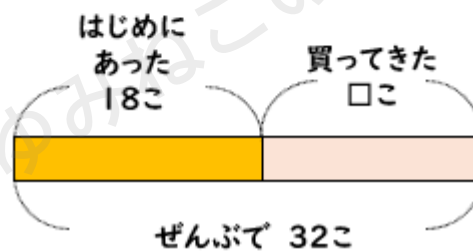
みかんが 18こ あります。



どこか 買って来たので、



ぜんぶで 32こに なりました。



いちばん 下の 図に ちゅうもくしよう。

「はじめにあった 18こ」と「買って来た □こ」をたしたものが「ぜんぶの 32こ」だね。

□を つかった しきを 作ると つぎのようになるよ。

$$18 + \square = 32$$

文を 図にして、

□を つかって しきを つくると、文の通りに しきを 作ることが できるんだ。

せっかく しきを 作ることが できたから、□に 入る 数をもとめて みよう。



$18 + \square = 32$ ということは、

「18に \square を たすと 32 になる」よね。

\square に 入る 数 を もとめるには、

32から 18を ひけばいいから、

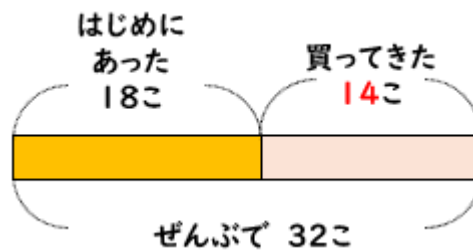
$$32 - 18 = 14$$

\square は 14だとわかるね。

答え：14こ

下の図で「買ってきた 数」が14こ とわかったよ。

18と 14を たして 32に なっていることを かくにんしておこ
う。



図をつかった ひき算

こんどは、ひき算の しきを つくってみよう。

みかんが 何こか ありました。
8こ 食べたので
のこりは 14こに なりました。

まず、この文を 図で あらわしてみるよ。

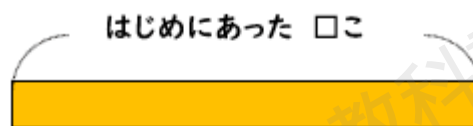
ただ、この文にも 「わからない数」 があるよね。



「はじめにあった みかんの数」がわからないよね。

この、「わからない数」である 「はじめにあった みかんの数」を 「□こ」にしたよ。

みかんが 何こか ありました。



8こ 食べたので、



のこりは 14こに なりました。



いちばん下の図に ちゅうもくしよう。

「はじめにあった □こ」から「食べた 8こ」を ひいたものが「のこりの 14こ」だね。

□を つかった しきを 作ると つぎのようになるよ。

$$\square - 8 = 14$$

わからない数を □を つかって しきを つくると、文の通りに しきを 作ることができるね。



しきを 作る事が できたから、□に 入る 数を もとめてみよう。

□ - 8 = 14 ということは、
「14に 8を たすと □ になる」よね。

だから、
14 + 8 = 22
□は 22だとわかるね。

答え：22こ

下の図で「はじめにあった 数」が22こ とわかったよ。
8と 14を たして 22に なっていることを かくにんしておこう。



図をつかった たし算とひき算の れんしゅう

公園で 12人が あそんでいました。
あとから 何人か きたら、ぜんいんで 21人に なりました。
あとから きたのは 何人でしょうか。

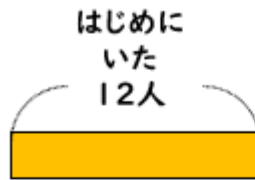
図をつかって、□のしきを つくる

まず、この文を 図で あらわしてみるよ。
この文の 「わからない数」 はなにかというと、
「あとから きた人数」がわからないよね。

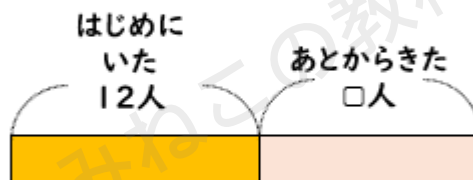


この、「わからない数」である「あとから きた人数」を「□人」にしたよ。

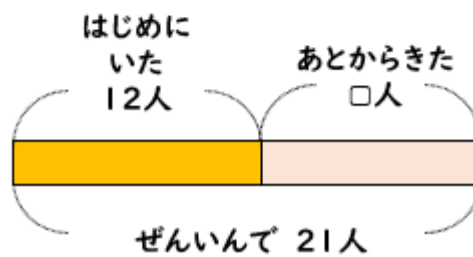
公園で 12人が あそんでいました。



あとから 何人か きたので



ぜんいんで 21人になりました。



いちばん下の図に ちゅうもくしよう。

「はじめにいた 12人」と「あとから きた □人」をたした数が「ぜんいんの 21人」だね。

□を つかった しきを 作ると つぎのようになるよ。

$$12 + \square = 21$$



□の数をもとめる

$12 + \square = 21$ ということは、

「12に □を たすと 21 になる」よね。

□に入る 数をもとめるには、
21から 12を ひけばいいから、
 $21 - 12 = 9$

□は9だとわかるね。

答え：9人

14mの リボンが ありました。

何mか つかったら、

のこりは 4m になりました。

何mの リボンを つかったでしょうか。

図をつかって、□のしきを つくる

まず、この文を 図で あらわしてみるよ。

この文の 「わからない数」 は、

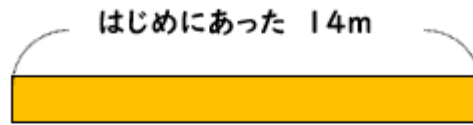
「つかった リボンの 長さ」がわからないよね。

この、「わからない数」である 「つかった リボンの 長さ」を

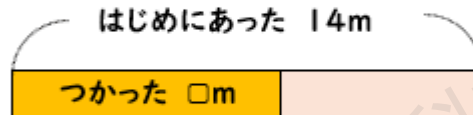
「□m」にしたよ。



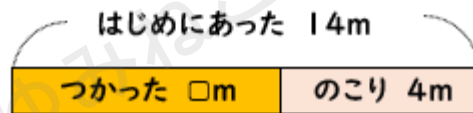
14mの リボンが ありました。



何mか つかったら、



のこりは 4mに なりました。



いちばん下の図に ちゅうもくしよう。

「はじめにあった 14m」から「つかった □m」をひいた数ら「のこり 4m」になるね。

□を つかった しきを 作ると つぎのようになるよ。

$$14 - 4 = \square$$

□の数をもとめる

14 - 4 = □ということは、

「14から 4を ひいたら □になる」から

$$14 - 4 = 10$$



□は10だとわかるね。

答え：10m

図をつかったたし算とひき算のまとめ

図をつかったたし算とひき算

- ・わからない数を □として、図であらわす。
- ・図であらわしたら、□をつかったしきであらわす。
- ・□をもとめるために、たし算をするか、ひき算をするかは、図やしきをみて考える。

